

「スキルも枠超えシェア」端羽英子氏

ビザスクCEO

2020/5/19 0:00 (2020/5/19 5:13更新) | 日本経済新聞 電子版



端羽英子氏が創業し最高経営責任者（CEO）を務める**ビザスク**は、様々な知識や経験を共有するスキルシェアリングを手がけています。約10万人が登録するプラットフォームとなり、業界で初の上場を果たしました。「価値のある情報を手に入れ、かみ砕いて理解する力が重要になる」と指摘します。

端羽英子氏（はしば・えいこ） 熊本県出身。東大経卒。ゴールドマン・サックスや日本ロレアルなどを経て2012年にビザスクを創業。2020年3月に東証マザーズに上場した。

——2030年の世界の姿は。

IT（情報技術）の発達で様々な情報を手に入れやすい時代になります。知識や経験を共有するスキルシェアリングがますます発達し、これまで会社や個人の中に眠っていた質の高い情報が社会で共有されやすくなるでしょう。ノウハウや経験を持つ人はそれを外部に提供して対価を得られます。個人が会社などの枠を超えて能力を生かしやすい時代になると期待します。

——あなたは世界をどう変えますか。

特に人口が減る日本では、生産性の向上が欠かせません。様々な業界についての情報をさらに気軽に共有できるようにしていきます。これまでコンサルティングといえば経営企画のトップ層だけが使っていましたが、一般の会社員なども短時間で自然に活用できる「スポットコンサル」として生産性向上につなげてもらいます。様々な「知」が流通する垣根が低くなり、知見を提供する個人の側は枠を超えて活躍することで、より自分に合ってやりがいのある仕事にも就きやすくなります。シンガポールに今年開設した拠点を足がかりに、国内外で知見のシェアリングを広げていきます。

日経電子版は創刊10周年を迎えました。次の10年で世界はどう変わるのでしょうか。各界の著名人らに自身の取り組みと合わせて語ってもらいます。



本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.